

「平成26年度の献血の推進に関する計画」(案)に対する  
意見募集結果について

平成26年3月  
厚生労働省医薬食品局  
血液対策課

「平成26年度の献血の推進に関する計画」(案)について、平成26年1月20日から平成26年2月18日まで御意見を募集したところ、9名の方から御意見等をお寄せいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見等とこれらに対する当省の考え方について、別紙のとおり取りまとめたので公表します。

今回、御意見等をお寄せいただきました方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

今後とも厚生労働行政の推進にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

「平成26年度の献血の推進に関する計画」(案)に関する意見募集に寄せられたご意見とそれに対する考え方

○ 意見募集期間 平成26年1月20日～平成26年2月18日  
 ○ 提出意見者数 9 名

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>厚生労働省や日本赤十字社のホームページや啓発資料を拝見させて頂き、血液事業に関する理解を深めながら、方々の献血ルーム(常設献血会場)に出向いは、四半世紀に亘り、定期的に献血に協力させて頂いております。</p> <p>借越ながら、ドナーの立場から【平成26年度の献血の推進に関する計画(案)】に対し、意見提言させて頂きます。</p> <p>一昔前の狭くて暗いイメージのあった献血ルームも、近年は、次々と新設や改装が進み、広く快適に、そして室内装飾や照明により、明るく華やかに採り変わり、感じます。一方で、その人工物の無機質な印象を与える献血ルームも散見致します。</p> <p>献血者の中には、緊張したり、不安感を覚える人も居られます。</p> <p>ドナー獲得の為、スタッフさんの街頭での呼び掛け活動も大事な事ではありますが、訪れた方が「また、来たい」と思ってもらえるような安心感を与える会場作りもまた同様に、ドナーを増やす為には大事な事ではないかと存じます。</p> <p>医療・介護施設では、利用者に少しでも安心して貰えるよう目に入る所に、緑の映えた植物を飾っている施設も数多くあると、伺います。</p> <p>そこで、献血ルームの待合・休憩室に、室内でも育てられる観葉植物を置いたり、時には、その地域や季節感を感じられる草花を花籠に生けて飾り、緑が持つ癒し効果を活かした演出をしてみたいかがでしょうか。</p> <p>広く明るくなくなく献血ルームが、より一層、安らぎやつらさを与える憩いの空間になるような気が致します。中には、すでに上記のような事が為されている献血ルームもありますが、新設や改装をした店舗、内装設計を担当した企業様に配慮してか、献血の啓発資料すら、どこに置いてあるのかわからない、待合・休憩室が殺風景になってしまっている箇所もございます。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、日本赤十字社は、献血者が安心して献血にまた来たいと思える採血所にするため日々努力をしております。頂いた御意見は、今後、献血者が、より利用しやすい採血所になるよう検討を行う際の参考にさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いします。</p>
2	<p>従来の献血ルームは施設面積が狭かつたり古かつたりなど子マトリはありましたが、職員の方が待合室内に季節感溢れる飾り付けを施して下さり、訪れるたびに美化があり「今度は、どんな感じになるだろうかと」期待しながら、行っていたものです。</p> <p>ところが、最近、御洒落で豪華な献血ルームが増え、施設が立派になった一方で、そうした楽しみに向けた献血ルームが減ったように感じます。</p> <p>献血者が、「是非、また訪れてみたい」と感じさせるような献血ルーム作りを、各所センター・各ルームが競い合うくらいになって欲しいものです。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、日本赤十字社は、献血者が安心して献血にまた来たいと思える採血所にするため日々努力をしております。頂いた御意見は、今後、献血者が、より利用しやすい採血所になるよう検討を行う際の参考にさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いします。</p>
3	<p>赤十字や血液事業(献血)に関する啓蒙に關して意見致します。</p> <p>献血事業「献血」に関し、献血予定者「ドナー」に理解・納得の上で協力して頂くのではなくてはならないと思致します。</p> <p>献血のお願いを頂くだけで、献血のお願いをしている日本赤十字社とは、どんな団体であるか、献血とは、どんなもので、どのように役立っているのか、献血会場への来所者に、きちんと明示すべきではないでしょうか。</p> <p>全ての方が納得の環境にあるわけではありませんが、また、必ずしも献血予定者「ドナー」までが、自らが情報を求め、自発的に調べているわけではありませんが、「詳しくは、ホームページを御覧下さい」というスタンスではなく、やはり、来所者に、ペーパーベースで情報を提示すべきではないでしょうか。献血は、多い人でも、月に1、2度、中には久しぶりに献血する方も少なくないので、そうした場合、我々ドナーが献血に関して、きちんとした知識を身に付けるのは、容易なものではありません。</p> <p>そこで提案があります。常設全場の献血ルームの一面に、「赤十字」を設け、赤十字や献血に関する情報を提示して欲しいです。具体的には、『赤十字NEWS(赤十字新聞)』はじめ、赤十字や献血に関する啓発資料・資料のバックナンバーをフレイグリングし、棚に設置し、来所した際には、いつでも、資料などを閲覧出来るようにしてみたいかがでしょうか。久しぶりに訪れると、過去の『赤十字NEWS(赤十字新聞)』や資料を(ペーパーベースで)我々ドナーが目にする事が出来ません。</p> <p>是非、御検討して下さい。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、日本赤十字社は、献血者が安心して献血にまた来たいと思える採血所にするため日々努力をしております。頂いた御意見は、今後、献血者が、より利用しやすい採血所になるよう検討を行う際の参考にさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いします。</p>
4	<p>献血に協力すると、粗品を頂ける事がありますが、県境越えて他の都道府県の献血会場でも献血したところ、他の来所者は沢山貰えるにも関わらず、何も頂けませんでした。</p> <p>「人運・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」という基本原則を掲げる赤十字ならば、献血に協力したドナーは全て、快く品頂せずに平等に扱って欲しいです。何故ゆえに「ドナー」に感謝の意を「公平」に覆って頂けないのでしょうか。</p> <p>これは、各都道府県で登録している複数回献血者倶楽部のドナーに対する優遇策かと思われそうですが、旅行先や出張先など、わざわざ遠方から来所したドナーは、これではガッカリします。中には、登録に必要なネット回線に繋がる携帯デジタル機器を所有していない人も居られることとして、</p> <p>献血に協力したドナー一全員が、不快・不愉快に感じることもなく、「次回も献血したい」と思えるような接遇を強く望みます。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、日本赤十字社は、献血者が安心して献血にまた来たいと思える採血所にするため日々努力をしております。頂いた御意見は、今後、献血者が、より利用しやすい採血所になるよう検討を行う際の参考にさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いします。</p>
5	<p>交通費を掛け、痛い思いや時間を割いて、我々ドナーは献血をしていますが、</p> <p>平日限定、平日午前限定、複数回献血クラブの会員限定、血液センターあるいは献血ルームのポイントカードを持っている人限定などで、特典として配布される処遇品が異なるのは如何なものか?</p> <p>特典が無いドナーには、献血をしても何も処遇品が貰えない時もあります。そうした経験をし、快くない気持ちにさせられたドナーは、きっと二度と献血に協力しないでしょう。</p> <p>献血をして血液が製品化され、患者さんの元に届けられる血液(製剤)は、曜日や時間で、価値(すなわち、価格)が変わるわけはないと思いますが、我々ドナーを差別せず、ドナー全員を同等に処遇して下さい。</p> <p>献血に協力した全ての人に、感謝を込め、血液センターあるいは献血ルームで、共通の処遇品を配布して頂きたいものです。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、日本赤十字社は、献血者が安心して献血にまた来たいと思える採血所にするため日々努力をしております。頂いた御意見は、今後、献血者が、より利用しやすい採血所になるよう検討を行う際の参考にさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いします。</p>

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
6	<p>いくらか法律で決められているからと言って毎年毎年おなじごとを繰り返すのは能が無いとしか言えない。HIV感染問題など重大な献血問題が出ているのに従来通りを繰り返しているのは怠慢であらう。そもそも採血した血液は不潔な後遺しや出来ぬという事実があるのに、さも完全な選別検査が出来るとして不特定多数の無差別採血という献血制度自体が間違っていると思わないだろうか。全国民の過去の病歴や健康状態などデータベースを作り、そして当日の健康チェックをOKだったから採血するぐらいの厳格な採血制度にしなければならぬと考えるべきだと思うのだが。</p> <p>採血車で乗り付け、通りすがりの人から無差別に採血するなど、とんでもないことだとしか思えない。血液は生きた細胞であり、臓器提供というイメージがあるため、身内や関係者の手術などで血液提供要求が無ければ献血しないのが普通の人の感覚であらう。従って献血に向かおうとしてしまう人々とは、臓器提供したいと思う人であり、何らかの病歴持ちと疑いたくなるのである。不特定多数の無差別採血の時代は終わりにすべき時期がきていると思うのだが。</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>我が国の献血制度は皆様の善意に支えられ、輸血用血液製剤や血漿分画製剤に使用されています。しかしながら、若者の献血離れや少子高齢化による献血可能人口の減少が進む中で、国、日本赤十字社及び都道府県では、将来的な献血基盤となる若年層への献血普及と活動を推進しています。</p> <p>御指摘のとおり、平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないよう周知徹底を図るとともに、HIVの検査増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に要する検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>
7	<p>昨年、輸血からHIVに感染するという事故がありました。</p> <p>その際、ニュースで数十分の血液を混ぜて、一度に検査するということを取るか、あるいは、検査する回数が増えるというデメリットを減らすという方法はないでしょうか？</p> <p>現場としては、思い込みです。それに、街で献血カーを見つけたら一度は検査してみたいという気持ちがあると思います。また、献血の機会がありません。それも、献血があまり盛んでない原因ではないでしょうか。</p> <p>また、学校では、『献血の大切さ』を教える講演はありますが、具体的な献血基準を知らないというのが現状です。私も、このパブリックコメントを送るにあたって調べ、初めて自分でもできる(体重制限で無制限)と知り、驚きました。</p> <p>知れば、自分にもできる、と献血に行く意欲にもつながると思います。</p> <p>最後に、政府機関で決められることなのかどうかはわかりませんが、献血基準を規制的に分かちやすくするために、体重が50kgぐらいの芸能人をCMIに起用してはいかでしょうか？</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないよう周知徹底を図るとともに、HIVの検査増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に要する検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。</p> <p>国、日本赤十字社及び都道府県では、将来的な献血基盤となる若年層への献血普及と活動を推進しています。若年層に対して、いかに献血に興味を持って理解を頂けるか検討しながら、献血普及と活動を行ってまいりたいと思っております。また、頂いた御意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>
8	<p>血液製剤の半分近い量を輸入に頼っている実態の改善が見込めないままの献血制度に反対する。輸血由来のHIV感染の防止策は献血制度では構築できない。健康と安全管理(担保)した売血制度を構築すべき。</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないよう周知徹底を図るとともに、HIVの検査増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に要する検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。</p> <p>点検から検封を行っていくことは必要なことと思っております。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>
9	<p>アンケート調査で国民、献血者は、献血が日本赤十字社によって輸血用血液製剤として製造販売されているだけでなく、献血の一部は民間製薬企業で血漿分画製剤という医薬品に加工され、雑病を含む様々な疾患の治療に使用されていることの認識が不足していることが確認されました。国を含め血液事業関係者が献血者に対して正確な情報提供をすることが必要であることを示しています。当局及び献血推進調査会でもこれらに関する具体的な方策をご検討願えるよう要望致します。</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血に関する普及啓発活動の実施」として、国は、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝えるとともに、国、日本赤十字社は、国民に一層の理解を求めるとなっております。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>啓蒙に取り組みしていきたいと思っております。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>
10	<p>私達は血液事業の根幹である現在の献血体制に関して、中長期的視点で課題解決に関する議論を開始することを平成24年度の「パブリックコメント」で提案してきました。当局としては中長期的活動目標として「献血推進2014」を推進している段階であり、これを達成することが当面の目標であると回答されています。次期中長期の献血推進について議論を開始する必要があると考えています。</p> <p>つきましては、血液事業の根幹である献血体制について、少子高齢化や安全性、更に製造供給体制の異なる輸血用血液製剤と血漿分画製剤に関する安定供給体制等の観点から血液事業部会で具体的な議論を開始することを要望致します。また、私達は採血事業や及び輸血用血液製剤製造事業者として日本赤十字社が議論に参加するだけでなく、血漿分画製剤製造事業者団体等も議論に参加することで、さらに広い視点から血液事業全体に貢献できることを考えています。ご検討ください。</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>献血推進については、平成22年度に5年間の中期目標「献血推進2014」を定め、その目標達成に向けた取組を実施しています。この目標は平成26年度までとなっておりますので、次期目標について、今後、献血推進調査会に諮り御議論いただくこととなります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>
11	<p>私達の一部の会員企業は欧州で成分献血のみの献血組織を運営しています。欧州では公的機関や赤十字以外に血漿分画製剤利用の民間献血組織があります。血漿分画製剤は主に成分献血で採血された原料血液で製造されていますが、成分献血に要する時間は約90分を要し、全血献血の約20分とは採血に要する時間が大きく異なります。更に成分献血は成分献血用の機器を設置する必要がある事や機器のスペースの問題があるため移動献血バスで実施することが困難で、献血施設での献血者の受け入れが主体となっています。これら成分献血に係る環境は日本でも欧州でも同様であることから、海外の献血体制を参考にしながら日本独自の安定的な献血体制の構築に向けて、国民、献血者と議論を行うことは重要で、特に将来の献血体制を担う若年層の観点から政策に反映する努力は必要です。そのために、献血推進委員会の委員が私たちの欧州の献血施設を視察し、現地との関係者と直接意見交換する機会を設けることは、今後の議論のために非常に有益と考えますので、当局にこの実施を提案いたします。</p>	<p>血液事業への御理解、御協力ありがとうございます。</p> <p>献血推進に関して、幅広い視点から検討を行っていくことは必要なことと思っております。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解、御協力をお願いいたします。</p>

